

文学部学位授与方針

学修成果

「学士(文学)」を授与される学生は、以下のような能力を有する。

1. キリスト教精神に裏打ちされた人文学の発想を幅広く深く身につけること
2. テキストを正確に読解できること
3. テキストについての自らの解釈を説得的かつ論理的に口頭ならびに文章で表現できること
4. 複数のテキストや事象にわたる主題について、その細部を首尾一貫して分析しさらにその成果を総合する思考力を持つこと
5. 他者を理解するための柔軟かつ粘り強い思考力を持つこと

さらに全学共通科目により、

6. 言語 A の学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、状況に応じて適切なコミュニケーションができる。さらに、英語圏の文化のみならず、英語を通して得た国際的な知見によって、多様な文化を理解し、対応できる。また、自分の専門領域の内容を英語で学ぶ基礎が身につく。また、NEXUS プログラムにより入学した学生については、言語 B と合わせて大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。
7. 言語 B の学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多元的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。
8. 学びの精神では、立教大学設立理念の一端に触れ、自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけ、大学での講義科目受講の包括的スキルを体得する。
9. 多彩な学びでは、学問的知見の多様性と豊饒性を理解し、他の諸学問の成果を交錯させることで、世界を複眼的に解読する柔軟な知性を涵養する。また、スポーツ実習では、心身の健康増進を目的とした科学的知識を理解し、スポーツの実践をとおした体力の維持・向上、運動習慣を醸成する。

以上に加えて、各学科・専修ごとにそれぞれの教育目標を記せば、

1. キリスト教学科ではキリスト教の歴史と文化について広く深い理解を持ち、宗教と社会の関連性を洞察できる能力を身につけることを目標とする。

2. 文学科は、言葉による人類の遺産を知り、文化創造の源に参加する。

- ・英米文学専修では、英語および英米文学・文化について広く深い理解を持つ。
- ・ドイツ文学専修では、ドイツ語およびドイツ語圏の文学・文化について広く深い理解を持つ。
- ・フランス文学専修では、フランス語およびフランス語圏の文学・文化について広く深い理解を持つ。
- ・日本文学専修では、古今の日本語および日本文学・文化について広く深い理解を持つ。
- ・文芸・思想専修では、言語表現力に広く深い理解を持ち、哲学的思考を行い、それを論理的あるいは文芸的形式をもって表現できる。

3. 史学科は、過去を知り未来を志向するなかで、総合的な人間理解に達することを目標とする。

- ・日本史学専修では、日本に関する史料に基づく歴史研究の手法および発想を身につける。
- ・世界史学専修では、大陸世界と海域世界の史料に基づく歴史研究の手法および発想を身につける。
- ・超域文化学専修では、複合社会文化論、文化人類学、アメリカ社会史、地域研究論、文化環境学、民俗学の研究手法および発想を身につける。

4. 教育学科では、幅広く教育学及び教育事象について理解し、深く思考するための視点と研究方法を身につける。とりわけ、教育学専攻課程では教育学の方法論について理解し、基礎的な研究方法と思考方法を身につける。初等教育専攻課程では、教育学についての理解をもとに、小学校教員としての知識と技能を身につけることを目標とする。